



MAINICHI



新毎日

6月8日(月)

2015年(平成27年)

発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号
〒530-8251 電話(06)6345-1551
毎日新聞大阪本社

途上国の子ども 古着で救う

たんすの肥やしになっていく洋服をすっきり片付けたいけど、捨てるのはもったいない……。そんな人にお勧めなのが、サイズの合わなくなった古着や靴、使わなくなったバッグやマフラーなどの服飾雑貨を活用し、途上国の子どもたちにポリオワクチンを届ける「古着deワクチン」。認定NPO法人世界の子ども

私もできる！



1箱で5人分のワクチン寄付

にワクチンを日本委員会(東京都港区)とリサイクル品輸出販売の日本リユースシステム(同)などの2社1団体が取り組むプロジェクトだ。

支援の方法は簡単だ。まず、ベビー用品などの通信販売「赤すぐ」で販売されている「古着deワクチン」を購入する。専用の着払い伝票が届くので、段ボールに不要な衣類を詰めて宅配業者に集荷を依頼する。購入者がする作業はこれで終了だ。

購入1口につき5人分のポリオワクチンが寄付される仕組み。プロジェクトが始まった2010年9月から今年4月1日までに、ラオス、ミヤ

仕分けや販売 現地に雇用も

ンマー、ブータン、バヌアツへ65万8031人分のポリオワクチンが寄付された。また、古着は主に開発途上国で再利用されるため、衣類の仕分けや販売といった作業が必要で、現地で雇用を生むこともできるという。

送ることができるのは衣類全般で、夏物や冬物は問わない。男女、子ども用いずれもOKだ。スーツに入った名前



着なくなった服を送ることで社会貢献につながる

の刺しゅうをほどこいたり、子どもの体操着などに書かれた名前を消したりする必要はなく、そのまま送って大丈夫。衣類の他に、バッグ(革や布、ビニール製など)、靴(ブーツ、パンプス、サンダル、スニーカー、ビジネスシューズ、スポーツシューズなど)、服飾雑貨(マフラー、ストール、スカーフ、ポーチ、ハンカチ、手袋、よだれかけ、帽子、ベルト、ネクタイ、サンングラスなど)も同じ段ボールに入れて送ることができる。

シミや汚れ、破損がひどい物、布団や枕などの寝具類、下着類は受け付けていない。ハンガーは必ず外して送るようにしよう。

【倉田陶子、写真も】

～古着を活用するには～

通信販売「赤すぐ」のホームページ(<http://akasugu.fcart.jp/>)か☎(0120・080・235)で、「古着deワクチン」の段ボールなし(1080円、商品番号04-02853-01)か段ボールあり(1620円、商品番号04-02853-02)を注文する。数日以内に届く専用の着払い伝票を使い、古着や服飾雑貨などを送る。自前の段ボールを使用する場合は、縦横高さの合計が160センチ以下のサイズを選ぶこと。重さは30kgまで。